

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970101412		
法人名	ホームケア株式会社		
事業所名	ホームケア奈良		
所在地	奈良県奈良市川久保町6-1		
自己評価作成日	令和3年4月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2970101412-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和3年5月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個の尊厳をモットーに、ひとり、ひとりを大切に日々取り組ませて頂いています。利用者の皆様が笑顔で楽しく生活して頂くことを目標に、個別支援の充実を目指しています。住宅型有料老人ホームも併設しており大きなイベントは合同で行っています。「自分で出来ること」を減らさないように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、奈良公園近くに立地し、駐車場に奈良の鹿が散歩にすることがある。春には近隣の奈良女子大学やホーム西側の公園の桜が見事で、奈良の風情が楽しめる。管理者は「見守り感度」を大切に、利用者を見守りながら利用者のできない所にそっと手を添え、できるまで待つことのできる「黒子のケア」を実践している。朝夕のミーティングで職員に理念を周知徹底することで、利用者の残存機能の維持を心がけている。昨年からのコロナ禍で現在は「月に1度ご家族1名で10分以内」との面会制限があり、管理者・職員はご本人・ご家族の寂しさやストレスを心配し精神面でもサポートに努めている。法人のバックアップもあり、利用者・職員が大切にされているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) コロナ感染予防により自粛中	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) コロナウイルス感染症予防により外出制限の為	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲げ(個の尊厳 ひとり、ひとり)(地域と密接に関わり...) (利用者の住み慣れた地域での生活の継続...)など新人研修、日々のかフェリス等職員全員で理念を共有し実践に取り組んでいる。利用者ひとりひとりの実現可能な範囲で目標を定め、利用者・職員両者が達成感を持てるように取り組んでいる。	法人の理念の「個の尊厳」と「黒子のケア」を基に、事業所玄関に「個の尊厳と自分らしくを大切に」を掲げている。リビングにはホームケア奈良独自の具体的理念「ひとりひとり」をイラスト入りの色紙に書き、壁に掲示している。朝と夕のミーティング時にはいつも目に触れ、読み上げる時もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時に近隣の方に積極的に挨拶し顔なじみになるように心がけている。近くのお寺では、中に入りお庭の植木を觀賞させてもらっています。	自治会に加入しており地域防災訓練に参加していたが、コロナ禍で中止となった。家族からの要望もあり、近隣のスーパーへの買い物も中止している。利用者のストレス軽減の為に、利用者全員が週1回少人数で散歩できるよう努めている。また2、3階の有料老人ホームの利用者と合同でイベントを実施することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全員が地域の方に役立つ事業所でありたいとの思いで地域の方と接しており、ホームに気軽に来ていただけるよう地域自治会の方に働きかけており、認知症についての勉強会を行ったり、将来の不安、今困っておられることなど相談もしていただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの日々の取り組みや研修内容の報告をさせていただき、ご意見をいただき、次回の研修に取り入れらせて頂いています。令和2年4月からはコロナ感染予防対策の為、外部からの参加は中止させていただきました。	通常、運営推進会議は地域包括支援センター職員と利用者家族の参加で開催されていたが、コロナ禍で外部からの参加は中止となった。今年4月の運営推進会議は地域包括支援センター職員と電話でコロナ対策について話し合った。前回の外部評価結果を報告しているが、その内容を知らない家族が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の高齢者サービスについての相談、苦情の相談、入居依頼のお客様の相談、事業所の運営の相談を含め、担当者と直接頻繁に行き来しており、連携を図っている。	市介護福祉課へ介護保険手続きや事業所内研修の資料の相談に行っている。生活保護の利用者の方が4名おられるので、市と連携して支援している。市からマスク、消毒液、ビニールエプロンの配布があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害についての研修を継続的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。窓、玄関など天気の良い日は開け放ち開放的になるよう心がけ、職員は日々拘束をしないサービスの検討を行っている。	身体拘束をしないケアについて、「不適切介護と身体拘束のかかわり」をテーマに研修している。昨年6月の転倒事故でセンサーマット導入を話し合ったが、職員が利用者に寄り添い見守る事を優先した。センサーマット使用やドアに鈴をつけるなどのグレーゾーンについても、グレーゾーンからいつしか拘束につながらないか、その危険性について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(虐待防止関連法)(気付かない虐待)についてマニュアルや事例報告等により定期的な研修を行っており、虐待について厳しく受け止めながら、毎日のサービス提供にあたっている。又、介護上の問題点を一人で抱え込まないで、全職員で取り込む様ミーティングを行っている。職員のストレスチェックも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の受け入れ相談時、家族や関係者とはそれらについて話し合っている。又、権利擁護制度や後見人制度について研修を行い周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は担当責任者が十分な説明を行い理解、納得していただいている。必要な場合は何度でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿への記入、直接の意見などをふまえて家族等の、不満、苦情、に迅速に対応しており、運営推進会議の場等で報告し、速やかに運営に反映するように努めている。運営推進会議の場では、苦情、不満が率直に出せるよう進行に努めている。また、意見箱の設置も行い年に一度は満足度調査を行い、その結果を考察し満足度の向上に努めている。	コロナ禍で面会制限の中、1階の本人居室の窓を少し開け飛沫防止のビニールカーテンをして、家族が外から会話ができるよう工夫している。毎年5月の利用者満足度調査で、「職員の言葉遣いやマナー」などについて、利用者の半数の方は聞き取り、半数の方には記入してもらって実施している。その結果から求められていることは何かを検討することで、職員の意識付けになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は管理者会議に持ち寄り都度検討し反映させている。	コロナ禍で職員は外出を控えるなど、公私ともにコロナストレスを抱えている。管理者は朝夕のミーティング時に職員の意見や提案を聞きストレス解消法についても話し合っている。管理者は、悩み事などを一人で抱え込まないよう、仕事と関係のない話をしながら個別に聴くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力、実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を育成する為研修を受ける機会を確保しており、計画的な、内部及び外部研修の参加の機会を確保し、職員育成を行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の際に地域の包括支援センターの方と交流を図っている。交流する機会をもちサービスの質を向上させられるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接本人と話す機会をゆっくりもっている。家族や本人に身近な方にも直接話を聞き、より多くの情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心、納得されるまで何回でも、何時間でも聞く機会を作っている。直接お会いしますが、電話の場合もあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族の意向をしっかりと聞き取り、本人と家族に一番必要としている支援を見極める対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と生活を一緒に過ごさせていただきながら、ご本人の想いを共感し、多くを学ばせて頂きながら支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご苦労や、想いを理解し信頼関係を築きながら、ご家族と共に本人を支えている関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	平常時は馴染みの場所や人との交流が継続できるよう取り組んでいる。ご自宅に帰り近所の方と交流できるようにご家族にお願いしている。友達に会いたいという利用者には電話で来所をお願いをしています。令和2年度はコロナ感染予防対策の為面会、外出制限をさせていただきました。	馴染みの民生委員の面会も、コロナウイルス感染予防の為に断っている。定期受診のため家族と外出できるが楽しみになっている。また現在は「月に1度ご家族1名で10分以内」との制限をして、飛沫防止用ビニール越しに家族と言葉を交わすことができるよう支援している。誕生日や季節の行事に懐かしい食べ物、食べたいものなど聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士が良好な関係になれるよう利用者の状 態、性格等考えながら支援している。又問題が起こっ た時は直ちにカンファレンスを行い改善を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を本人、家族から聞き とり介護計画書におりこみ、カンファレンスで話し合い、職員全 員が把握に努め統一した援助を行っている。百人一首が 得意な利用者様を中心に「かるた」を取り入れています。 ペットボトルのキャップでパズルを作り取り組んでもらっ ています。個人で新聞を購読されている方もおられます。	入居時に自宅訪問して利用者の生活や趣味な ど聴き、アセスメントシートに記録している。ケア の中で気づいたことは、申し送りノートに記録し て職員で共有している。帰宅願望の強い方に は、職員が付き添い落ち着いてもらうなど管理者 と職員が協力して利用者個々に寄り添った支援 を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	一人一人の生活歴や生活環境等の把握に努め、毎 日の話題等支援内容に取り入れる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人、一人の状況変化をカンファレンスで話し合い、把握 し介護計画に基づいて統一した援助を実行してい る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と日々話し合い、利用者 本位の介護計画の作成、変更、実施を繰り返し行っ ている。	ケアプランの更新・区分変更時はケース記録や 申し送りノートを基に職員と話し合い、家族の意 見も聞きながら、本人の生活が楽しく安全に維 持出来るケアプランを作成して家族の了解も得 ている。身体状況が変化したときは、医師や看 護師と相談しながら家族に報告し、次回プランに も反映させている。夜勤専門の職員からの情報 を引継ぎ時に見逃さず共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者の介護記録を記入し、変化については、 申し送りや、カンファレンスを行い、情報の共有、計画 の見直し等行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応はすべて受け入れている。その他個別 の対応も要望に応じている。入居、退去、の荷物の 搬入、搬出支援、送迎サービス、介護用品の購入の相 談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防署の協力を得ている。地域ボランティアの方も定期的に踊りや歌等の催しの協力をいただいている。令和2年4月からはコロナ感染予防対策の為外部からの参加は中止しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関はありますが、馴染みや希望の医療機関がある場合は情報提供しながら連携するよう努めています。協力医療機関との連携が整っており、24時間相談できる体制になっている。定期受診はご家族が同行していますが難しい時は職員が支援しています。	利用者は月2回のホーム協力医の診察を受けるが、医師は毎週来ているので利用者の気になることを相談できる。他に歯科医、皮膚科の往診を受ける方、馴染みの精神科を受診する方がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携が整っており、利用者の状況把握に努め訪問看護ステーションとの相談、及び協力医療機関との24時間連携体制になっており、日常の健康管理や医療相談等行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院関係者(入院病院の医師、看護師)と連携し、早期退院出来るように情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を確認し、状態の変化時には、かかりつけ医から説明してもらい、本人、家族の意向の把握を行っている。情報を基に対応方針を定め職員間で情報を共有し、かかりつけ医とともに職員全員が出来る事、出来ない事を見極め検討し、医師や訪問看護ステーションと連携し支援している。	ターミナルケアの指針があり、重度化したときに本人、家族の意向を聴いている。医師、看護師、職員が連携して最近では3名の方を看取った。利用者は最期まで慣れた環境の中で過ごし、職員の声にもよく反応してくれ、コロナ禍であったが居室で家族と面会できるよう支援した。職員は看取りの経験から多くのことを学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置。緊急時のマニュアルがあり、マニュアルに沿って研修を行い対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等のマニュアルにそった防災訓練、非常災害時避難訓練、消防署の方にも協力頂き定期的におこなっている。被災時の応援に運営推進会議などで地域の人へよびかけている。また、事業所だけでなく法人全体としての応援態勢を整えている。	年2回の防災訓練の他に水害土砂災害訓練を実施した。夜間専門職員にも夜間想定マニュアルを伝えているが夜間訓練は実施できていない。備蓄は3日分あり、毎年4月と10月にラーメンと水を入れ替えている。新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを検討し、作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を大切にその人に適した言葉かけや対応に努めている。人生の先人として尊び、日々教えられる立場であることを命じて介護にあたらせていただいている	昨年4月にユマニチュード(あなたのことを大切に思っています~その気持ちを伝える技術)の研修をしている。職員は声をかけて入室する、利用者の苗字で呼ぶ、排泄時や入浴時は言葉使用に気を付けるなど注意し合っている。5月実施の利用者満足度調査の結果を考察し、サービスに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の力に合わせた説明を行い、本人の思いや希望を現せるよう支援している。本人の希望等は介護計画書に取り込み職員全員が把握するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあった生活ができるよう状態を把握し支援する。支援内容は介護計画書に取り込み統一した支援を行っている。朝食等、その方のペースに合わせ時間をずらして対応するなどしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみやおしゃれができるように支援している。訪問美容サービスを受けているが望む店にいかれる場合は支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや力に応じて好きな物を買って食べられるよう支援内容を計画し、準備や、後片付け、食事を楽しんで頂ける支援を行っている。食事支援、見守り等を優先しながら職員が出来るだけ同じ食卓で摂れるように努めている。	温めて盛り付けるクックチル方式で食事を提供している。5月実施の利用者満足度調査の結果に副菜の量が少ないなどの意見がある。月に一度はお好み焼きやちらし寿司など手作りしている。期限消化のために非常食(ラーメン)を食べる日もある。車椅子の方も椅子に移り食べている。	コロナ禍で施設内での楽しみ方を工夫するために、手作り料理の日を増やすとなお良いと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算し、栄養バランスに配慮した食材を利用し、摂取量や水分量を記録し、一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。状態の変化がある場合には、医師に相談し、指示を仰いでおり、ペースト食やソフト食にするなどの援助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。状態の変化によりカンファレンスを行い変更実施し、口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の力や排泄パターンを熟知することで排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう支援する。介護記録に基づきカンファレンスを行い支援内容の統一を行い、介護計画の見直し、変更、実施をおこなっている。夜間オムツの方も日中はハビリパンツに変えトイレで排泄している。	病院から退院後はオムツからハビリパンツに変えトイレで排泄してもらうよう支援している。入居後に排泄チェック表で排泄リズムをつかむことで失禁が減り、布パンツになる方もいる。現在4人の方が布パンツ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為一日1200～1500ccの水分補給に努め、ラジオ体操等による適度な運動、医師指示等による食事内容の工夫等により予防している。一人一人個別に援助内容を計画し援助している。お通じ改善の為、朝食時に牛乳を取り入れスムーズな排泄支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの身体状況等に合わせた入浴支援内容を計画し、入浴を楽しんで頂いている。一番風呂に入りたい等ご本人の希望に合わせた対応を心がけている。入浴剤を入れて温泉気分を楽しんでもらっています。	浴槽は家庭的なユニットバスである。入浴は週2回で、午前か午後の好きな時間に入浴できる。立位が無理な方はシャワー浴となっている。半数の方は介護度が高く、2人で介助している。浴室はゆったりしており、気持ちよく歌を唄う方もいる。10月には温泉週間を企画し、温泉気分を味わってもらっている。	介護度が高い方も、湯船につかりたいのかシャワー浴がよいのか、利用者自身が選択でき、その思いにこたえられるよう職員の入浴介助技術のスキルアップが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息したり眠れるように環境を整え支援しており、身体状況の変化等に応じ適切な支援が行われるように継続したカンファレンスを行い状況把握に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬局から頂いた薬の情報を熟読し、服薬の支援と症状の変化の観察に努めている。居宅療養管理指導を入れ、薬及び残薬の管理も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に目的支援を計画し、実行することで日々の生活に張り合いや喜びをもって頂ける様支援する。計画の内容は本人の希望や能力に応じカンファレンスにより話し合って決定、変更をくりかえしている。洗濯たみや食器洗い等楽しみながらしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年度は敷地内の散歩。コロナ感染予防対策の為、買い物に出かけられませんでした。令和3年3月は近くのお地蔵さん迄の散歩を再開しました。	洗濯干し場に芝生が植えられており、駐車場にも奈良の鹿が入って来ることがあるので、利用者に声をかけて一緒に鹿と戯れることがある。また、女子大学近くのお地蔵さんまで散歩するなど日光浴や外気浴をしている。事業所西側に公園があり、桜の花見ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力に合わせ、金銭支援を行い金銭へのかかわりをもっていただいている。近くのスーパーへの買物に行った時の支払い等具体的内容は預かり金出納帳に記載し、統一した援助を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の希望や力に応じて電話や手紙のやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気になるよう配慮し、季節の行事ごとに飾りつけの工夫をしており、居心地よくすごして頂ける様努めている。	事務所を挟んで1階の南北にユニットⅠとⅡがあり、玄関は別になり利用者の行き来はない。それぞれ居室、リビング、浴室、トイレがあり広く車椅子の方も動きやすく、外出もしやすい。洗濯干し場の芝生でお茶が楽しめるテーブルと椅子があればなお良いと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファなど自由に使用し過ごせるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具を本人やご家族の好みに配置され、ご仏壇や写真を飾るなどそのひとらしい生活空間づくりをご家族、本人と相談しながら行っている。	居室には、ベッド、エアコンが備え付けられており、そこに使い慣れたタンスやテーブルセットや布団を持ち込んでその方らしい部屋づくりがなされている。アルバムを持参の方もおられる。コロナ禍なので衣替えは職員が手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、浴室、トイレ等に手すりを設置し、自立した生活が送れるようにしており、身体状況により居室内に手すりが必要な場合はご家族と相談し、対応する。又、各部屋入居者の名前を書き、場所の間違えを防ぐなど、自立にむけた支援を行っている		